

10月から3月の人権啓発推進員会議および研修会①

10/12 第3回会議 テーマ「ことばと人権」

差別的表現について近年の動向について学び、差別語・差別表現も時代とともに変化してきた。差別語・差別表現は偏見の象徴的な発言形態であり、当時の問題指摘やマスメディアの対応等で多くの言葉や表現が変わっていったことを学び、侮蔑の意味をもって発せられたことばは差別語であることを認識した会議の場となった。

10/26 第6回研修会 テーマ「セルフ・エスティーム」

セルフ・エスティームとは、私たちが社会的人間として、どのように人間関係を構築し、課題にどう反応し行動するか。また、いかに生きるかということに大きな影響を及ぼすということ、アメリカで行われた実験授業や事例をもとに学習し、自分をかけがえのない人間（存在）と認め、欠点も含めて「自分を好きになる」ことは、人権教育の重要なキ・コンセプトの1つであることを認識する場となった。

11/9 第4回会議 テーマ「被差別部落をめぐる教育の状況」

明治維新後、明治6年に学制（公教育制度）のスタートと被差別部落での就学について学習し、2年前の明治4年に「身分解放令」が出されたが、地域住民の差別意識から被差別部落住民であることから、入学できるはずの学校から入学拒否をされ、やむを得ず地域住民の子どもを対象とした分校に通うこととなったが、就学率が低く非識字率も高かった。1985年にユネスコ学習権宣言にもあるように、学習権は人間の生存にとって不可欠な手段である。また、基本的人権の一つであり、その正当性は普遍的であることを認識する場となった。



11/30 第7回研修会 テーマ「部落差別解消推進法」の制定と課題について

住吉隣保事業推進協会理事の友永健三さんをお迎えし、2016年12月に施行された「部落差別解消推進法」について講演していただき、今後の取り組みとして、相談体制の充実や教育・啓発の積極的な推進と実態調査の実施が大事であることを学ぶ機会となりました。



10月から3月の人権啓発推進員会議および研修会②

12/14 第8回研修会

テーマ「部落解放への取り組み」

戦後同和教育運動の展開と国際識字年について学ぶ。福岡県の部落解放運動から識字運動が全国展開されており、世界的に2015年現在、非識字者が7億8100万人存在する。うち3分の2は女性が占めており、女性の非識字率と乳幼児の死亡率が関連している。貧困による非識字率を改善するためには、教育分野の援助により識字率向上が貧困解決に繋がることが認識する研修となった。



2/8 第5回会議

テーマ「チョコレートと児童労働」

DVD「カカオ農園における児童労働の実態」を鑑賞しカカオ農園で幼い児童が朝6時から12時間労働を強いられ、学校へ行く費用もないため就学率も低い状況にあった。悪質な児童労働に対し、国際的な取組みとしてカカオ及び他の農業部門で危険な児童労働の防止撤廃の動きもあることがわかった。

その後、3グループに分かれて演習問題を行い、年少労働と学習権について考える機会となりました。

2/22 第9回研修会

テーマ「チョコレートと児童労働②」

前回の会議に引き続き、同テーマについてパワーポイント教材を用いて2016年時点で、世界の児童労働（5～17歳）の現状では1億5100万人（うち7200万人が危険有害労働）に従事。日本においても、明治から昭和にかけて、炭鉱作業で親と一緒に炭鉱に入り、児童労働従事をさせていたことがわかった。その後、意見交換では労働問題で、定年制が延びると地域活動の担い手がなくなる、コミュニティ作りの支えが無くなるとの意見があった。



3/22 第10回研修会

テーマ「べてるの家と統合失調症」

DVD「ようこそ べてるへ」を鑑賞し、北海道浦河町にある精神障害等を抱えた当事者の活動拠点で暮らす様子を映像を通じて学習。

定期的に行うミーティングを通じて病気は当たり前で普通として受け入れている人間関係や施設でお互いの病気を認め一体型共同生活をしながら日高昆布商品の販売や、べてるまつりを通じ町民との交流と互いに認め合い地域の活性化に取り組むことを研修会を通じて学ぶ場となった。

